

調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関する世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

(2) 調査項目

- 1) 電力の小売全面自由化後における道民の電力会社選択動向等について
- 2) 自転車の利用実態等について
- 3) がん対策について
- 4) 人とヒグマの共存に関する道民の意識について
- 5) 森林・森林づくりに関する意識について
- 6) 地域づくりについて
 - ①安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて
 - ②環境を活かし、個性と活力に満ちた地域づくりについて

(3) 調査の方法

- | | |
|---------|--------------------|
| 1) 調査地域 | 北海道全域 |
| 2) 調査対象 | 道内に居住する満 20 歳以上の個人 |
| 3) 標本数 | 1,500 サンプル |
| 4) 地点数 | 150 地点 |
| 5) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| 6) 調査方法 | 郵送配付、郵送回収 |
| 7) 調査期間 | 平成 28 年 8 月 |

(4) 調査実施機関

(株) 東京商工リサーチ 北海道支社 及び本社市場調査部

(5) 調査回収状況

標本数	1,500
有効回収数 (回収率)	754 (50.3%)

2. 調査回答者の特性

区分	総数	比率
【総数】	754	100.0%
【圏域別】		
道南圏	58	7.7%
道央圏	472	62.6%
道北圏	75	9.9%
オホーツク圏	43	5.7%
十勝圏	50	6.6%
釧路・根室圏	35	4.6%
無回答	21	2.8%
【人口規模別】		
札幌市	295	39.1%
人口10万人以上の都市	188	24.9%
人口10万人未満の都市	131	17.4%
町村部	123	16.3%
無回答	17	2.3%
【性別】		
男性	386	51.2%
女性	356	47.2%
無回答	12	1.6%
【年代別】		
20～29歳	56	7.4%
30～39歳	92	12.2%
40～49歳	130	17.2%
50～59歳	162	21.5%
60～69歳	159	21.1%
70歳以上	144	19.1%
無回答	11	1.5%

区分	総数	比率
【職種別】		
自営業(農林漁業)	15	2.0%
自営業(商工サービス業)	43	5.7%
自由業	23	3.1%
事務職系	152	20.2%
労務職系	137	18.2%
主婦	152	20.2%
学生	5	0.7%
無職	151	20.0%
その他	65	8.6%
無回答	11	1.5%
【市町村居住年数別】		
1年未満	12	1.6%
1～5年未満	62	8.2%
5～10年未満	44	5.8%
10～20年未満	93	12.3%
20年以上	527	69.9%
無回答	16	2.1%

注) 個々の比率(百分率)は、小数第2位を四捨五入した。このため、各区分における比率の合計が100.0%にならない場合がある。

3. サンプリング

母集団	道内に居住する満 20 歳以上の個人
標本数	1,500 サンプル
地点数	150 地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

①北海道の市町村を、次の 6 圏域に分類した。

【道南圏】★函館市、北斗市、七飯町、八雲町、長万部町、江差町

【道央圏】札幌市、★江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、岩見沢市、美唄市、芦別市、滝川市、砂川市、深川市、南幌町、新十津川町、★小樽市、蘭越町、ニセコ町、余市町、★苫小牧市、室蘭市、登別市、伊達市、壮瞥町、浦河町

【道北圏】★旭川市、士別市、名寄市、富良野市、美瑛町、美深町、留萌市、増毛町、稚内市

【オホーツク圏】★北見市、網走市、紋別市、美幌町、遠軽町、湧別町

【十勝圏】★帯広市、音更町、広尾町、幕別町、本別町

【釧路・根室圏】★釧路市、鶴居村、根室市、中標津町、標津町

注) ★は札幌市を除く人口 10 万人以上の都市

②各圏域については、「札幌市」「人口 10 万人以上の都市」「人口 10 万人未満の都市」「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、平成 28 年 3 月 31 日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満 20 歳以上の個人であるため、平成 28 年 6 月 2 日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより 150 の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を抽出原簿として採用した。

(3) 抽出

①第 1 次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に配分した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、平成 21 年 10 月 5 日時点の合併市町村の動向を考慮し、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占用率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する 150 地区を抽出した。

②第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500を抽出した。なお、抽出に当たっては、満20歳以上の個人であることに留意した。

$$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$$

(4) 抽出結果

圏域、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

地域	人口規模	住民基本台帳人口数 (H.28.3.31現在)	選挙人名簿登載者数 (H28.6.2現在)	標本数	地点数
道南圏	人口10万人以上	266,823	228,238	70	7
	人口10万人未満	47,369	38,703	10	1
	町村部	131,870	113,105	40	4
道央圏	札幌市	1,941,029	1,625,846	540	54
	人口10万人以上	414,396	347,699	120	12
	人口10万人未満	691,312	581,756	210	21
	町村部	311,991	264,602	70	7
道北圏	人口10万人以上	343,718	290,308	100	10
	人口10万人未満	129,209	109,322	50	5
	町村部	149,098	125,297	30	3
オホーツク圏	人口10万人以上	120,291	101,521	30	3
	人口10万人未満	60,054	50,562	20	2
	町村部	110,542	93,292	30	3
十勝圏	人口10万人以上	167,810	139,853	50	5
	町村部	177,139	145,852	40	4
釧路・根室圏	人口10万人以上	175,160	148,422	50	5
	人口10万人未満	27,287	22,995	10	1
	町村部	112,684	92,965	30	3
合 計		5,377,782	4,520,338	1,500	150

4. 調査地点一覧

圏域	振興局	市町村	抽出ヶ所
道南	渡島	函館市	宝来町
			高丘町
			女那川町
			亀田本町
			富岡町2丁目
			人見町
			高松町
		北斗市	追分
	七飯町	大中山2丁目	
	八雲町	栄町	
長万部町	字長万部		
檜山	江差町	字新栄町	
道央	石狩	札幌市中央区	双子山
			伏見3丁目
			大通西15丁目
			南8条西6丁目
			南11条西1丁目
		札幌市北区	北6条西25丁目
			篠路町上篠路
			麻生町4丁目
			北18条西4丁目
			新琴似5条2丁目
			屯田6条7丁目
			あいの里4条6丁目
			北40条西5丁目
		北11条西3丁目	
		札幌市東区	東苗穂1条2丁目
			北23条東1丁目
			北22条東16丁目
			北9条東1丁目
			本町2条3丁目
			丘珠町
		札幌市白石区	伏古14条3丁目
			南郷通1丁目北
			栄通6丁目
			東札幌2条3丁目
平和通1丁目北			
本郷通7丁目北			
菊水1条4丁目			

圏域	振興局	市町村	抽出ヶ所
道央	石狩	札幌市豊平区	福住1条2丁目
			中の島1条2丁目
			平岸4条7丁目
			月寒東2条19丁目
			西岡4条7丁目
			水車町7丁目
		札幌市南区	真駒内曙町1丁目
			北ノ沢
			石山1条2丁目
			藤野4条5丁目
		札幌市西区	琴似1条1丁目
			二十四軒4条5丁目
			発寒6条13丁目
			宮の沢1条4丁目
			八軒1条西1丁目
		札幌市厚別区	福井5丁目
			厚別南2丁目
			大谷地東5丁目
			厚別中央3条3丁目
		札幌市手稲区	もみじ台北6丁目
			西宮の沢4条3丁目
			曙12条1丁目
			星置1条3丁目
		札幌市清田区	前田7条12丁目
			真栄1条2丁目
			美しが丘3条6丁目
		江別市	里塚1条4丁目
			朝日町
			大麻南樹町
		千歳市	野幌末広町
新富1丁目			
文京1丁目			
恵庭市	北信濃		
	漁町		
北広島市	柏木町		
	大曲南ヶ丘3丁目		
石狩市	輝美町		
	花川北3条3丁目		
			親船町

圏域	振興局	市町村	抽出ヶ所
道央	空知	岩見沢市	上志文町
			日の出南4丁目
		美唄市	進徳町
		芦別市	北6条西4丁目
		滝川市	北滝の川
		砂川市	三砂町
		深川市	文光町
		南幌町	中央
	新十津川町	字中央	
	後志	小樽市	若竹町
			桂岡町
			桜2丁目
			オタモイ1丁目
		蘭越町	蘭越町
		ニセコ町	字有島
	余市町	黒川町	
	胆振	苫小牧市	泉町1丁目
			ときわ町1丁目
			住吉町1丁目
			美園町1丁目
			字勇払
		室蘭市	水元町
			知利別町
白鳥台2丁目			
登別市	富岸町2丁目		
伊達市	舟岡町		
壮瞥町	字滝之町		
日高	浦河町	荻伏町	
道北	上川	旭川市	春光2条7丁目
			緑ヶ丘東5条1丁目
			忠和3条7丁目
			豊岡6条1丁目
			新富2条2丁目
			春光台4条3丁目
			東光10条3丁目
			宮前1条3丁目
			永山北1条
神楽4条12丁目			

圏域	振興局	市町村	抽出ヶ所
道北	上川	士別市	武徳町
		名寄市	風連町西町
		富良野市	桂木町
		美瑛町	旭町3丁目
		美深町	西1条
	留萌	留萌市	南町4丁目
		増毛町	別荘
宗谷	稚内市	緑6丁目	
オホーツク	オホーツク	北見市	三楽町
			美芳町1丁目
			とん田東町
		網走市	字呼人
		紋別市	落石町
		美幌町	字青山
		遠軽町	豊里
湧別町	中湧別北町		
十勝	十勝	帯広市	西16条南5丁目
			西21条南4丁目
			西13条南34丁目
			別府町南
			大空町
		音更町	緑葉台南区
		広尾町	丸山通南
		幕別町	札内新北町
本別町	向陽町		
釧路・根室	釧路	釧路市	文苑4丁目
			東川町
			昭和中央1丁目
			旭町
			若竹町
	根室	鶴居村	鶴居東
		根室市	駒場町
中標津町		字俵橋	
		標津町	字川北

5. この報告書の見方

- (1) 回答率（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、回答が2つ以上ありうるため、合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の「N」（Number of cases の略）とは設問に対する回答件数の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。
- (4) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上記の式により、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率(P) 回答者数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
754	±3.09%	±4.12%	±4.72%	±5.05%	±5.15%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。

《この表の見方》

例えば、「ある設問の回答者数（n）が754で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±5.05%内（54.95～65.05%）である」とみることができる。

- (5) 圏域別（道南、道央、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については「4 調査地点一覧」（P5～P9）に記載している。
- (6) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。
- (7) 回答件数が10件未満の項目については、基本的にコメントを割愛している。